

Economic Indicators

発表日：2020年3月31日(火)

景気動向指数(2020年2月)の予測

～景気は先行き、大幅悪化が不可避～

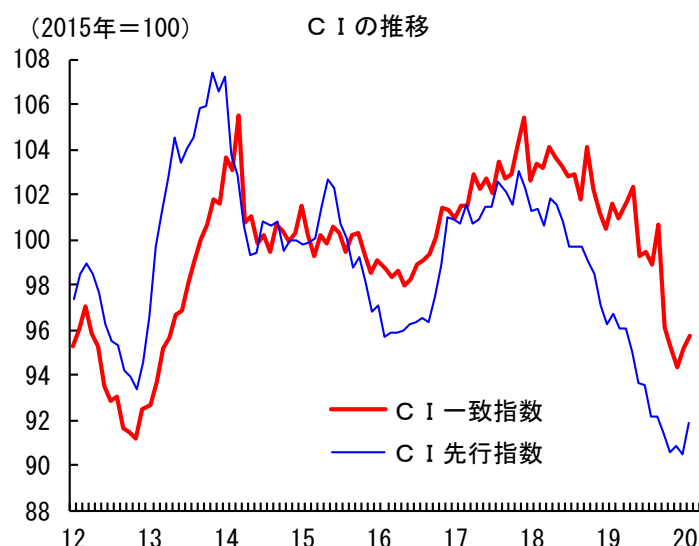
第一生命経済研究所 調査研究本部
 経済調査部長・主席エコノミスト 新家 義貴
 (TEL: 03-5221-4528)

前月差プラスも戻りは弱い。先行きの景気は大幅悪化不可避の情勢

内閣府から4月7日に公表される2020年2月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+0.5ポイントと予想する。内訳では、有効求人倍率がマイナス寄与の一方、生産財出荷指数や小売業販売額などがプラス寄与となり、全体では小幅上昇が見込まれる。

C I一致指数は2ヵ月連続の上昇が見込まれるが、上昇幅は小さなものとどまっておき、1-2月平均の水準は10-12月期を0.3ポイント上回るに過ぎない。19年10-12月期に前期差▲4.5ポイントもの急低下になった後の戻りとしてはかなり鈍いとの評価が妥当だろう。内閣府による基調判断も「悪化」が維持される見込みである。2月は前月差、3ヶ月後方移動平均の前月差ともプラスが見込まれるが、基調判断上方修正の基準は満たさない。

先行きの景気については、大幅な落ち込みが避けられない情勢だ。新型コロナウイルスの感染拡大に伴って2月末以降、外出手控えの動きが強まっていることから、サービス消費を中心として国内需要が大幅に落ち込んだとみられることに加え、欧米を中心として厳しい外出規制や工場の操業停止等が実施されていることで、日本からの輸出も3月以降は大幅に減少するとみられる。内外需ともに今後厳しさが増すことが予想され、景気は当面、急激に悪化する可能性が高い。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2020年2月は第一生命経済研究所による予測値

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

